



いちご農家になるために



私の家は、いちごと米を栽培しています。いちごはパイプハウス6棟、連棟ハウス1棟で品種はとちおとめを栽培し、米は3ヘクタール栽培の経営を行っています。いちごは小学生の頃から作業を手伝い始めましたが、いちごの出荷箱折りなどの簡単な仕事から、歳を重ねるごとに田植えやパイプハウ

スのビニールの張替え、いちごの定植などの体力が必要な仕事を手伝えるようになり、作業の大変さと面白みを感じたことで、農業をやるうと決心しました。

高校生の時には、就農か進学か迷っていました。祖父母が高齢で両親の年齢や人手不足などもあり、重労働など体を動かす作業ができなくなってきたため、両親はいちごの規模を減らすなど経営を見直しました。そこで、高校を卒業してすぐに就農をすれば、家族の負担を軽減できると思いました。それではいちご栽培の知識や技術を学ぶことができないとも思

い、悩んだ結果、進学をしたいと両親に相談すると快く背中を押してくれました。そして、私は栃木県農業大学校に進学しました。入学してわかったことは、自分にいちごについての知識、技量が不足していることでした。いちごの農作業の手伝いといっても単発的なもので、1年を通して作業を行っていないので、知らないことばかりでした。炭疽病といった病気を聞いたことや見たことはあつ

ても、詳しい症状や原因までは深く考えたことがなく、先生に教えてもらって初めてわかりました。中休み、なり疲れなどという用語も初めて聞きました。パック詰めなど様々な作業も初めて体験することが多く、覚えるのに大変苦労しました。

将来は、農業大学校で覚えた知識や技術を活かし、我が家の経営にあつた栽培技術を積極的に導入して、立派ないちごの農家になりたいと思います。

(園芸経営学科 野菜専攻
鈴木颯斗)

